

核兵器廃絶平和都市宣言 40 周年記念

富士市に残る戦跡や 戦争に関連した記録



次の世代へ平和のバトンをつなぐ



富士市長

金指 祐樹

昭和60年11月19日に市議会の議決を経て、本市が「核兵器廃絶平和宣言都市」としての歩みを始めてから、40年という節目の年を迎えました。この宣言は、市民の皆様の強い願いと市議会の意思を礎とし、核兵器のない世界の実現と恒久平和への思いを国内外に明らかにしたものであります。

宣言から40年が経過した現在も、世界には依然として多数の核兵器が存在し、国際情勢の不安定化により、核リスクはむしろ高まっているとも指摘されております。

被爆体験を語り継ぐ世代が減少する中、核兵器の非人道性を正しく理解し、その記憶を未来へ継承していくことは、私たちの重要な責務であります。唯一の被爆国として、本市が果たすべき役割は決して小さくありません。

このたび、核兵器廃絶平和都市宣言40周年を記念し、これまでの本市の平和推進の歩みや市民の皆様と取り組んできた活動そして地域に残る戦争の記録をまとめました。

この記録が、大勢の目にとまり、平和の尊さを改めて見つめ直す契機となり、次の世代へと平和のバトンをつなぐ一助となることを願っております。

目次

次の世代へ平和のバトンをつなぐ

富士市長 金指 祐樹

40周年を迎えて 富士市議会議長 笠井 浩

この富士の地から 核兵器廃絶平和富士市民の会

代表 小長谷 保

核兵器廃絶平和宣言都市のあゆみ

核兵器廃絶平和都市宣言

第一部 戦争遺跡

市内の戦跡MAP

富士飛行場

富士にもあった空襲

大芝裁縫女学校跡記念碑

愛宕山平和祈念之碑

少年戦車兵慰霊碑

須津の軍人墓地

お寺の鐘は二度出征

静岡県抑留犠牲者慰霊碑

第二部 戦争の記録

富士市の戦没兵士たち

満蒙開拓青少年義勇軍 富士小隊

特高警察による反戦平和・自由の弾圧

富士への学童集団疎開

戦時中の旧町村役場兵事関係公文書存在

小学校、国民学校の校務日誌、

各学校の百年誌などの記録

戦争に関する実物資料

戦争体験等の記録

30 29 28

27 26 23 22 21

19 17 16 15 14 13 12 9 7

5 3 2 2 1

40周年を迎えて



富士市議会

議長 笠井 浩

本市が「核兵器廃絶平和都市宣言」を国内外に表明してから40年が経過しました。「戦争の惨禍をなくし、世界の恒久平和を実現することは、全人類の願いであり、世界で初めての被爆体験を持つ日本国民の悲願である」として、市民ならびに市議会を意思を踏まえ、平和への願いを込めて採択されましたが、国際社会では今もお武力紛争等により尊い命が犠牲となっている現実があります。

日本における核兵器廃絶運動の背景には、広島・長崎の被爆、そして本県焼津漁港の漁船「第五福竜丸」のビキニ環礁での被爆などがあります。被爆者やご遺族の歩んで来られた辛く苦しい道のりを決して忘れず、核兵器の犠牲者を二度と出すことのないよう「核なき世界」の早期実現を強く願うばかりです。

今年、戦後80年・被爆80年の節目の年であります。私たちはこれまで大戦の教訓を胸に、不断の努力により平和で豊かな社会を築き上げてきましたが、今後も唯一の被爆国として、核兵器廃絶にどの国よりも強く、そして積極的に取り組むことが求められています。

この冊子の発行が、さらなる平和活動推進の一助となることを期待します。

この富士の地から



核兵器廃絶平和富士市民の会

代表 小長谷 保

昭和60年11月19日に、富士市は核兵器廃絶平和都市宣言をしました。この宣言がなされたのはこれを求める市民運動の盛り上がりの結果でした。平和都市宣言がなされたことにより、これ以降富士市においても、周年行事やミニミニ原爆展、被爆樹木の植樹、10周年ごとの記念誌の発行など様々な平和活動がなされてきました。また、私たち平和富士市民の会もこの宣言を契機に発足し、平和のための富士戦争展などを続けてきています。40周年を迎えるに当たり、当時を思い起こすと、宣言を求める市民運動やその後の市民による平和活動を推進し、その中核を担ってきた人たちは、前の太平洋戦争を経験してきた方々でした。40年が経過し、これらの人たちのほとんどは亡くなられてしまいました。今を生きる私たちは、これら故人の思いを胸に刻んで運動を続けることとなります。

核兵器廃絶平和都市宣言40周年を迎える中、今の世界及び日本の平和を考えると、危機的状況にあることを憂えざるを得ません。とりわけこの10年をみると世界の至るところで戦争が起こっています。また日本においては長射程ミサイルの大量導入、政府高官の核兵器保有容認の発言などその様相は急に変化しています。

改めて40年前の平和都市宣言を読んでみましょう。平和都市宣言が描く日本の社会と、現在日本の社会の違いに唖然とせざるを得ません。私たちは、こうした社会の変化の中でも平和運動を推進してきた故人に思いを寄せつつ、この富士の地から平和を叫び続けなければなりません。

核兵器廃絶平和宣言都市のあゆみ

1982

(昭和57年)

3月 市議会において核兵器全面撤廃と軍縮に関する意見書 を全会一致で議決

1984

(昭和59年)

3月 平和都市宣言に関する議員発言に対する市長答弁

「私個人としては賛成であり、できるだけ早い時期に実現させたい」
「市民運動による燃え上がるような熱意を背景にして宣言してこそ価値がある」

6月 市議会において公務員共闘会議からの請願について審議、不採択となる

8月 くらしと平和を考える市民のつどい 開催

草の根的な平和団体が結集し、市民にアピール

1985

(昭和60年)

4月 市民のつどい実行委員会が平和都市宣言賛同人の獲得に着手

6月 非核平和都市宣言を求める富士市実行委員会 発足

請願署名の獲得のため、署名運動が展開される。

9月 核兵器廃絶平和都市宣言の請願書が市議会で採択される

非核平和都市宣言を求める富士市実行委員会（請願者代表：落合巳代治氏）から、7万2,902人分の署名と紹介議員10人の連名簿を添えられた請願書が提出され、全会一致で採択された。

11月 核兵器廃絶平和都市宣言が議決される

定例会議において、市長提案による「核兵器廃絶平和都市宣言」が全会一致で議決される。

1986

(昭和61年)

2月 核兵器廃絶平和都市宣言塔を設置

4月 日本非核宣言自治体協議会に加入

8月 核兵器廃絶平和富士市民の会 発足

11月 核兵器廃絶平和都市宣言一周年記念モニュメントをロゼシアター西側富士見大通りに建立

1988

(昭和63年)

8月 第一回 平和のための富士市戦争展 開催

※1991年から「平和のための富士戦争展」に改称

1991

(平成3年)

3月 核兵器廃絶平和都市宣言5周年記念誌 発行

1992

(平成4年)

8月 平和都市宣言文パネルを公共施設へ設置

1994

(平成6年)

3月 市議会において核兵器全面禁止・廃絶国際協定(条約)締結を求める意見書 採択

1995

(平成7年)

7月 戦後50周年記念誌『富士の語りべ』の記 第一集 発行

9月 中国、フランスの核実験に抗議し、核実験全面禁止条約の早期締結を求める要請文を富士市長名で送付

1996

(平成8年)

3月 核兵器廃絶平和都市宣言10周年記念誌 発行

1998

(平成10年)

5月 インド大使館へ 核実験に対する抗議文 を富士市長・富士市議会議長名で送付

5月 パキスタン大使館へ 核実験計画の中止を求める要請書 を富士市長・富士市議会議長名で送付

6月 パキスタン大使館へ 核実験に対する抗議文を富士市長・富士市議会議長名で送付

2000

(平成14年)

11月 核兵器廃絶平和都市宣言PR横断幕 作成

2001

(平成15年)

8月 米の宮公園に被爆二世クスノキの苗木を植樹

2005

(平成17年)

12月 核兵器廃絶平和都市宣言20周年記念誌 発行

2008

(平成20年)

5月 核兵器廃絶平和都市宣言モニュメントを平垣公園に設置

10月 平和市長会議(現 平和首長会議)に加盟

2009

(平成21年)

6月 北朝鮮へ地下核実験実施に対する抗議文を送付

2010

(平成22年)

8月 ミニミニ原爆展 初開催

2011

(平成23年)

1月 県と協働によるパネル写真リレー展開催

2015

(平成27年)

11月 核兵器廃絶平和都市宣言30周年記念誌 発行

11月 30周年記念式典および映画「アオギリにたくして」上映会

11月 米の宮公園に被爆二世アオギリの苗木を植樹

2019

(令和元年)

9月 国際平和デー～平和の鐘を鳴らそう～ 初開催

11月 戦争遺跡等説明プレート設置事業開始

2020

(令和2年)

11月 平和を考える-戦争の歴史をたどるMAP 作成

2021

(令和3年)

10月 市政いきいき講座に「平和って何だろう」を登録

2023

(令和5年)

7月 中学生広島市派遣事業 初開催

2025

(令和7年)

8月 平和を祈る 市内寺院での「打鐘」

8月 広報ふじ「戦争と平和」特集 パネル展開催

8月 講演「ジョーが私たちに託した思い～広島・長崎・福島からのメッセージ～」開催

11月 「富士山のふもとから平和を願う日」開催

2026

(令和8年)

3月 富士市に残る戦跡や戦争に関連した記録 発行

核兵器廃絶平和都市宣言

戦争の惨禍をなくし 世界の恒久平和を実現することは 全人類の願いであり 世界で初めての被爆体験を持つ日本国民の悲願である

しかしながら 核軍備拡大競争は 依然として進み 平和に対する 深刻な脅威と 戦争の危険は後退していない

富士市は 平和憲法のもとで 平和で明るい生活を享受するため 市民憲章を制定し 市民の行動原理として培ってきている

富士市民は 戦争をなくし 真の平和を実現するための努力を明らかにし 富士山のように 広く 美しく 高く たくましく 正しく生きることを悠久の理想として 非核三原則を遵守し すべての核兵器の廃絶を求めることを市民の総意とする平和都市を ここに宣言する

昭和60年11月19日

富 士 市

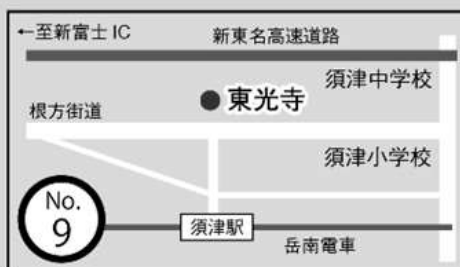
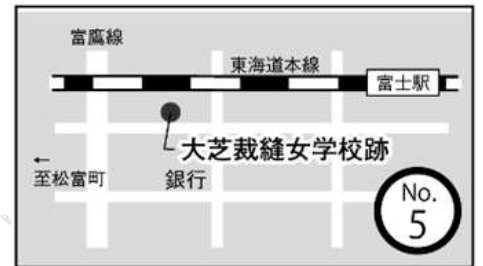
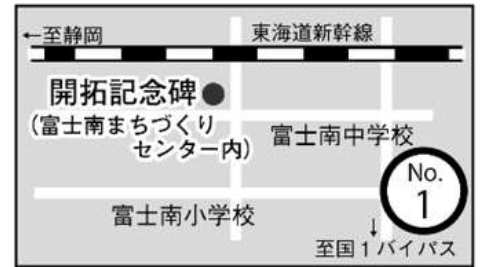
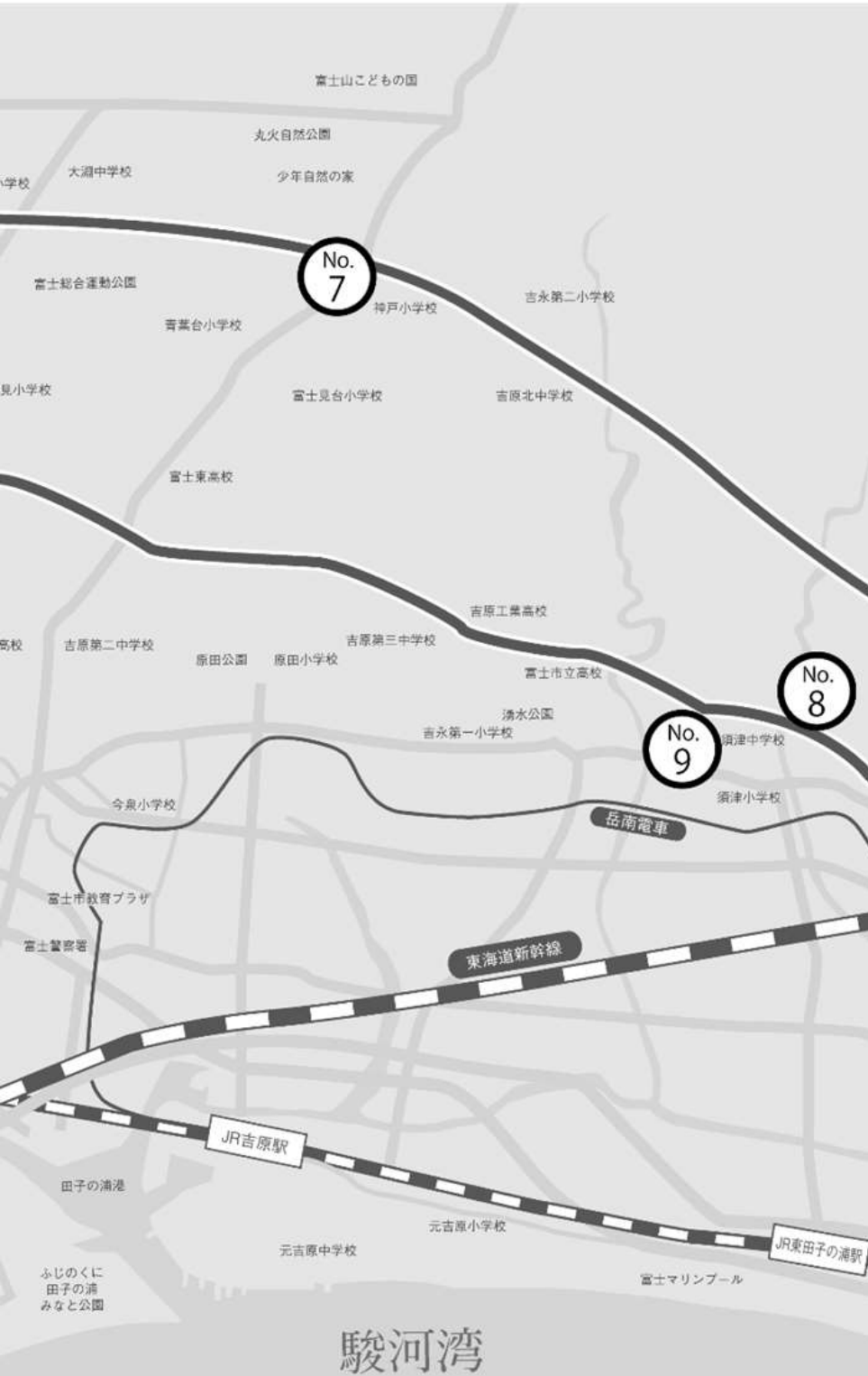
第一部 戦争遺跡

●戦争遺跡等を訪れる際はご注意ください!

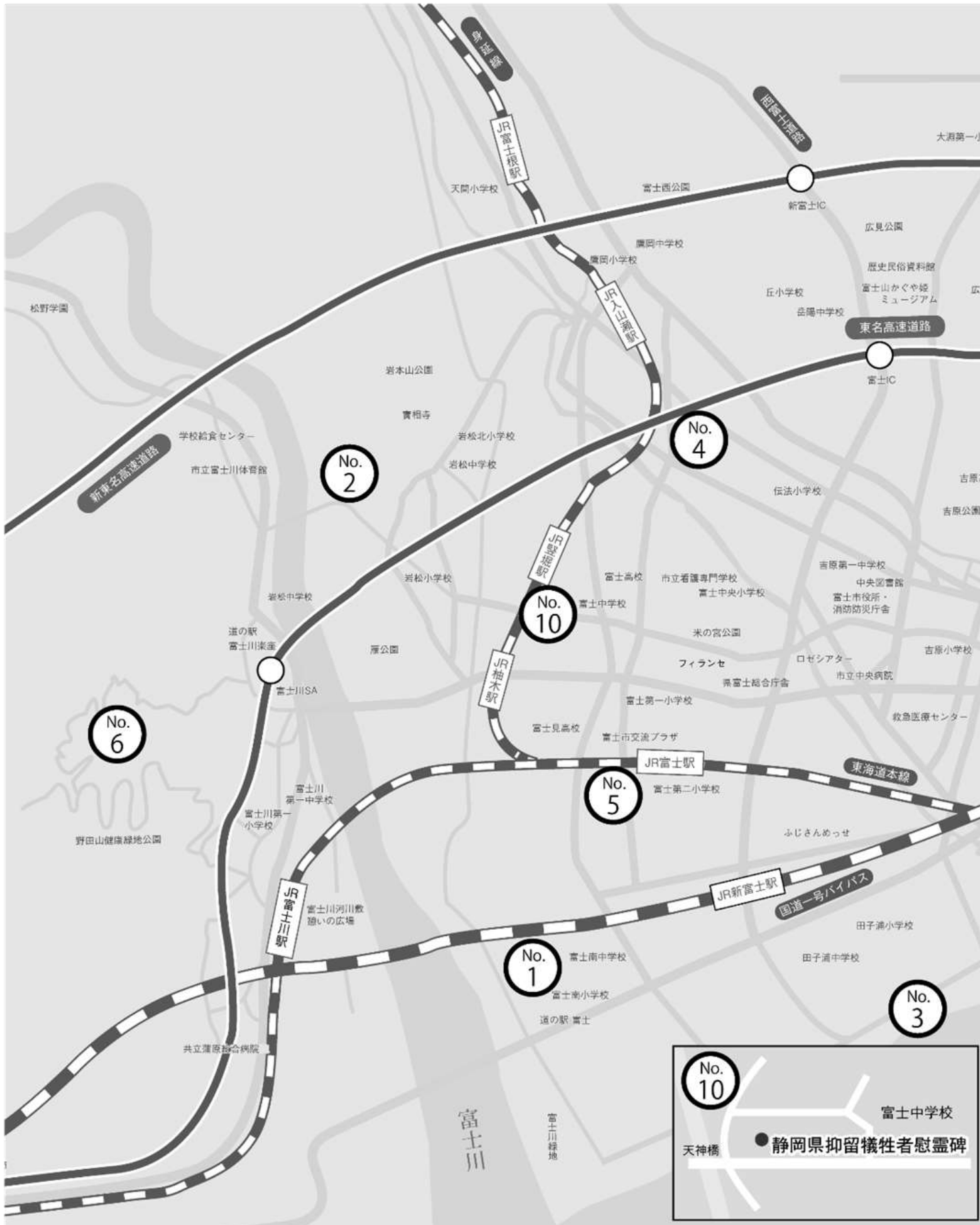
戦争遺跡等の中には、私有地または悪路を通らなければいけない場所があります。私有地への無断侵入や違法駐車などの迷惑行為は、絶対にしないでください。また悪路を通行する際は、事故に気を付けてください。

問合せ/シティプロモーション課

電話:0545-55-2736 Eメール:so-citypro@div.city.fuji.shizuoka.jp



市内の戦跡MAP



1

富士飛行場

(明野教導飛行師団富士分飛行場)



97式戦闘機

富士飛行場は、陸軍の飛行場として1944年9月27日に開設。翌1945年8月の敗戦まで、1年足らずしか使用されませんでした。
西は富士川左岸河口部、南は田子浦海岸に面し、地図で見ると、ここだけが碁盤の目のように整然と区分されていることが分かります。



富士飛行場の設置目的

1941年から始まったアジア・太平洋戦争では、航空兵力の存在が大きくなり、飛行機の増産やパイロットの養成が重視されました。

しかし、南太平洋上での米軍との激しい戦闘で多くのパイロットが戦死したことから、パイロット養成訓練のため、全国各地で飛行場建設が急ピッチで進められました。
富士飛行場もその1つです。磐田市の天竜飛行場と兄弟飛行場で、三重県伊勢市にあった明野陸軍飛行学校の戦闘機パイロットを養成する一翼を担いました。

富士飛行場用地と主な移転先

(原図は昭和11年2月作成・下図はその略図)



飛行場の建設

1944年2月、陸軍航空本部から「5月末までに家屋移転の完了、9月には一番機が飛べるように飛行場を造成すること」という飛行場設置の命令が下されました。

これに地元である富士町役場と田子浦村役場は、関係者に説明会を開催しました。説明会はとてもしも反対を言える雰囲気ではなく、出席した関係者はやむなく了解し、大わらわで建設準備に取り組みました。

移転戸数 (計230戸)

旧富士町		旧田子浦村	
森島	42戸	上五貫島	85戸
宮下	28戸	下五貫島	75戸

移転先

旧富士町、旧田子浦村

- 1.日東紡績(株)敷地
- 2.王子製紙(株)敷地
- 3.水無
- 4.川向
- 5.その他

家屋の移転

ちょうど田植えの時期とも重なったことから、他町村から勤労員の応援を得ました。また、当時は深刻な物不足の時期であったため、瓦や杉皮、羽目板、柱を丁寧に壊し、リヤカーや大八車で運搬しました。役場は電気、水道、道路の整備の支援に力を入れ、苦労の末、なんとか期日である1944年の5月末に完了させました。

中国人強制連行とは

1942年、東条内閣は、若者を戦場に送り出した後の労働力不足を補うため、「華人労務者内地移入ニ関スル件」を閣議決定し、中国から日本の135事業所へ約4万人弱の労務者を強制連行し、重労働の鉱山作業や炭鉱作業のほか、飛行場建設作業に従事させました。

飛行場の造成工事

徴用工や朝鮮人労働者の労働力ではとても追いつかなかったため、工事を請け負った熊谷組は、富士郡下17町村から各中学校、農学校の生徒たちを含む、万を超える勤労動員を行い、木の根掘りや地ならしを進めました。

さらに、中国から強制連行した労務者504人にも従事させ、過酷な労働と栄養失調、伝染病などにより、52人が死亡しました。

中国人殉難者慰霊碑

No.3

戦後、1948年に熊谷組が中丸区に慰霊碑を建立しました。側面に死亡者氏名が刻印されています。続いて1990年に副碑が建立され、中国人強制連行と戦後、1954年に行われた遺骨の中国返還の経緯が記されています。

毎年7月に、地元田子浦地区の中丸区と、日中友好協会による慰霊祭が行われています。



副碑



中国人殉難者慰霊碑



燃料を運び込む様子



地下壕入口



地下壕内部

燃料庫の地下壕

No.2

飛行場としての建物や、掩体壕などの構造物はなく、唯一富士川左岸の岩本山麓に飛行場の燃料庫として利用した地下壕があります。

※地下壕は私有地のため、立ち入り禁止です。

パイロット養成訓練と 沖縄戦特攻隊

明野陸軍教導飛行隊で編成された特攻隊のうち4隊（1441から1444までの振武隊）24人が、富士飛行場で特攻隊の訓練を実施。沖縄戦への出撃命令を受け、1441・1443・1444の3隊が万世飛行場（鹿児島）へ飛び立ちました。

第一期訓練	1944(昭和19)年9月から12月にかけて、陸軍士官学校57期、航空転科の72人、戦闘規範による教科と九七式戦闘機での飛行訓練を実施。
第二期訓練	翌1945(昭和20)年1月から3月にかけて、学徒出陣による特別操縦見習士官74人と召集尉官29人が訓練を実施。この訓練後に福田場長からの特攻隊志願の要請を受け、熱望した6人に沖縄戦への出撃命令が下された。
特攻隊訓練	特攻隊訓練を1945(昭和20)年5月から6月にかけて実施。

特攻隊とは

特別攻撃隊の略で、アジア・太平洋戦争末期、日本軍が戦局の悪化を挽回するために採用した、航空機に爆弾を抱えた体当たり攻撃隊のこと。

富士飛行場での訓練生のうち、沖縄戦へ出撃した5人が戦死。残りは本土決戦待機特攻隊に編成されました。

特攻死した富士飛行場での訓練生

1945(昭和20)年 6月8日	141振武隊 長井隊長機と平原機
	144振武隊 中島隊長機と岡田機
1945(昭和20)年 6月11日	144振武隊 薄井機

戦後の開拓で緑の田畑に

証言 生き残った特攻隊員の思い 片山啓二（特操二期生）

本を持つ身で操縦桿を握った学徒たちは何を思案しつつ、特別攻撃隊に身を投じていったのでしょうか。生粋の軍人ではなく、学究の徒としての自分の人生の可能性がこの攻撃によって完全に失われることに強い憤りを持ちながらも、一方では国家存亡のときにあたり、このような戦法以外に戦う場はないのかと最後まで悩みながら押し寄せる米軍に対し、肉親や愛する人と祖国の山河を守るために誰かがやらねばならぬなら自分がやろうと青春をかけて対決して行ったものと思われてなりません。

敗戦後、明野陸軍飛行学校から残務整理隊が派遣されました。飛行機と武器を米軍に引き渡し、1945年10月末に飛行場は役目を終えました。

碑文には、富士飛行場に提供した土地や建物の状況、戦後開拓組合結成、開拓の経緯が記されています。

開拓記念碑

No. 1

戦後の食糧不足のため、すぐ飛行場跡地で耕作が始まりました。1946年8月に富士開拓農業協同組合が結成され、国庫補助事業として開拓が進められました。一度飛行場として固めた土砂を、地元住民たちが手作業で取り除き、道路や水路の建設を進め、10年もの年月を経て、元の緑の田畑をよみがえらせたのです。

また、農地解放もあって小作者を中心に一反歩を基本に土地を配分したので、碁盤の目のような街並みになっていて、飛行場跡地というのが地図上から分かりません。元軍人が開墾した土地も一部あり、「靖国」という地名になっているところもあります。



開拓記念碑

富士にもあった空襲

(伝法 中桁)

2

爆弾投下で破壊された
神明宮鳥居

No. 4

1945年に入ると、太平洋のグアム島、テニアン島、サイパン島のアメリカ軍基地から連日B29編隊による全国各地への空襲が激しくなりました。

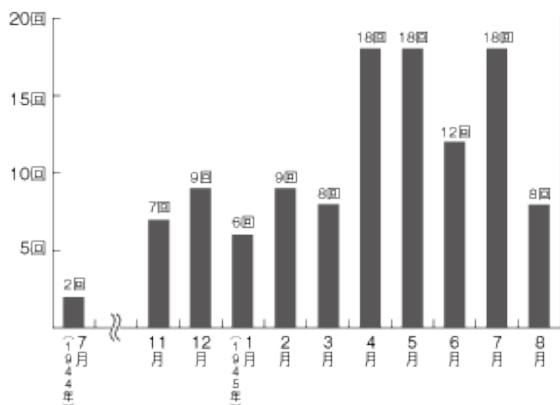
3月10日の東京大空襲をはじめ、6月から7月にかけて、県内では、浜松、静岡、清水、沼津の市街地の大半が空襲で焼失しました。



神明宮鳥居の残骸

次は富士町、吉原町も狙われるとのことで、建物の強制疎開で延焼を防ぐ取組も始まりました。

警戒警報・空襲警報の回数



吉原東町防空日誌

米軍機は富士山を目標にして、東の東京方面、西の名古屋・大阪方面へと飛来するので、富士では連日のように警戒警報が発令されました。

大淵村森林組合日誌（1944年6月～1945年8月）によると、1945年4月から7月にかけて多くの警戒警報・空襲警報が発令されています。

富士市の空襲被害

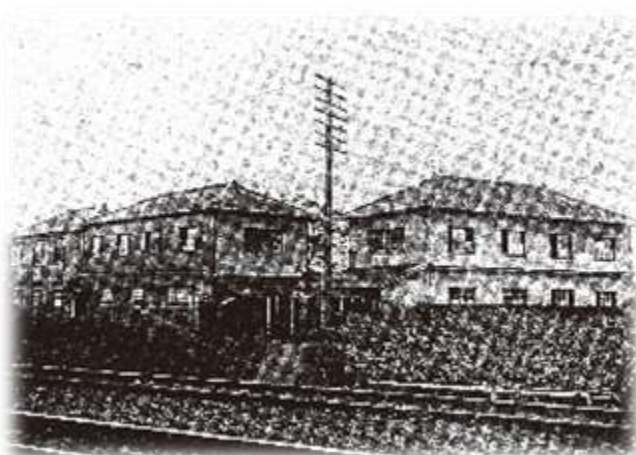
1944年11月5日	敵機来襲被弾1人 金刺らく右腕切断ス（富士町役場日誌から）
1945年4月9日	敵機一機飛来、中桁へ投弾。古谷宅家屋全壊、5人死亡。 神明宮鳥居倒壊、その他重傷3人、軽傷2人、家屋被害30か所に及ぶ。 中桁、片宿、長沢等へ投弾9か所（吉原東町防空日誌から）
1945年7月25日	小型機約15機来襲。元吉原、大昭和、富士飛行場、蒲原軽金属方面、機銃掃射及び小型爆弾、攻撃を受け、軽金属火災発生（富士市消防史から）
1945年7月30日	富士飛行場をはじめとし、大・小編隊、間断なく来襲、P51小型機十数機来襲。 日産、東芝、大昭和鈴川工場、富士飛行場、田子浦小須海岸通り部落に機銃掃射。 爆弾投下被害相当のものあり（富士市消防史から）

大芝裁縫女学校跡記念碑 (水戸島)

3



授業風景



当時の外観

大芝裁縫女学校はなぜ
廃校となったのか

No.5

1943年の学園閉鎖を報道する新聞記事によると、「長引く戦争で多くの兵士が農村や工場から戦地へ送られ、それに伴って労働者の不足が目立ってきました。そこで政府は、学生や生徒を勤労奉仕勤労動員で補充したのです」とあります。

閉鎖された各種学校の生徒は、軍需工場へ送り込まれました。静岡県は、大芝裁縫女学校などをはじめ、県下各地の裁縫女学校などの廃校を決めました。

当時の高等女学校には、限られた有力者の子弟のみ進学していました。残りの大多数の女子にとって、この大芝裁縫女学校は裁縫だけでなく、一般教養として、国語・算数・家事・作法などの教育を受ける場としていて、女性の自覚、社会的地位向上に、大きな役割を果たしていました。

学生は、山梨県身延方面や沼津、賀茂郡からも広く通学していて、大正時代の創立以来、3千人以上の卒業生を送り出し、

郷土に貢献した学校でした。

学校長は学校の存続を願い、地元軍需工場との連携を計画しましたが、県の強い指示で廃校となりました。1944年6月に繰り上げて卒業式が行われ、6月29日には軍需工場凸版印刷会社へ、女子挺身隊として全員が送り込まれました。

また、校舎は県の日本鋼管清水ドック工員宿舎へ転用という指示により、解体後提供されました。

戦後、1987年に同校卒業生有志により、渡辺彦太郎書による記念碑が同校敷地跡に建立されました。

この大芝裁縫女学校廃校の歴史は、戦争遂行のため、国家総動員法のもと、人(生徒)も、物(校舎)も総動員した一つの事例でもありました。



大芝裁縫女学校跡地
記念碑

愛宕山平和祈念之碑

(旧富士川町 室野) No. 6

4

本土決戦防衛陣地 (高射砲陣地) づくり

1945年1月、決戦非常措置要綱が示され、一億総特攻、一億総玉砕のかけ声とともに、本土防衛の陣地づくりが本格化しました。

富士地域では、米軍が駿河湾に上陸し、富士川沿いに北上するとの想定のもと、富士川右岸愛宕山に高射砲陣地を構築し、山腹から攻撃する計画が策定されました。

同年4月から、高崎歩兵連隊約1千人が、旧富士町、旧岩松村、旧富士川町、旧松野村の国民学校や寺院に分宿し、昼夜兼行でシャベルやつるはしなど、手掘りで11か所、最長80メートル余りの地下壕を建設しました。この軍隊の駐屯で、各国民学校は二部授業になりました。

また軍への協力で、馬の干草の提供、富士川から山頂への砂利運搬、炊事場や風呂の提供、婦人会による歌や踊りの慰問などが行われました。

ところが7月に入ると、米軍上陸は関東鹿島灘方面との予測になり、作業は突然中止され、部隊は茨城県方面へ移動となりました。

1995年に戦後50年を記念し、旧富士川町役場が愛宕山山頂に「平和祈念之碑」を建立しました。

愛宕山の地下壕

1986年、旧富士川町役場が、地下壕の調査を実施しました。その記録が富士市の建設総務課に保管されています。

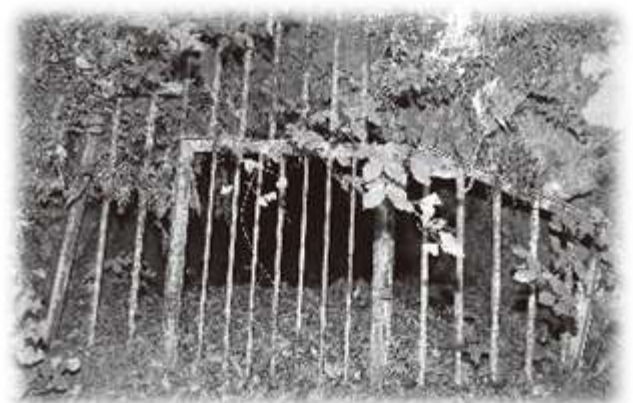
現状は、崩落の危険があり、入口には柵が設置され、中を見ることはできません。



平和祈念之碑



地下壕内部



地下壕入口

少年戦車兵慰霊碑

(神戸) No. 7

5

1943年3月、富士郡上井出村にあった陸軍少年戦車兵学校の少年戦車兵第二中隊160人が、夜間訓練のため、御殿場演習場を目指して出発しました。神戸橋付近で、1台の戦車が進行方向を誤り、滝川の12メートル下の谷底へ転落しました。乗車していた4人の少年兵のうち、大地好道少年兵（広島県三原市出身。当時18歳）が亡くなりました。

地域の人が総出の作業で、ほかの3人は軽傷で助かりました。当時の道路は狭い砂利の馬車道でした。前を行く戦車による砂ぼこりと、道路の急カーブ、路肩の軟弱が重なり事故となりました。

慰霊碑の建立

同年11月に慰霊の碑が建立されました。碑文には、亡くなった大地さんの歌、「霊峰の富嶽のもとで 大君の盾たる 戦技 今日も磨かん」が刻まれています。

少年兵とは

普通、兵士は20歳の徴兵検査で入隊するものでしたが、少年兵は、小学校高等科卒業後15歳で志願し、訓練生となる制度でした。戦車兵、飛行兵、通信兵など、各種ありました。



慰霊碑

須津の軍人墓地 (神谷) No. 8

6

戦時中、須津村で忠霊顕彰会が設立され、軍人墓地建設工事が遺族の協力で進められました。しかし完成を見ないまま終戦となり、そのまま放置されていましたが、戦後、地元仏教会を先頭に行った募金活動を機に、復員軍人、企業、須津村の協力で建立されました。遺族会の感謝を記す「霊域之碑」も建立されました。

建立当初は須津中学校北側にありましたが、中学校の体育館建設、さらには東名高速道路の建設の2度の工事を経て現在の地に移設されました。

各地の寺院や共同墓地に建立されている墓碑や忠霊碑は、兵士の階級や財力によって大小様々であるのに対し、ここでは224の柱が同じ形で建立されています。

慰霊祭

慰霊祭が毎年行われています。遺族の高齢化が進み、現在は須津地区の町内会連合会が、若い人たちへ二度と戦争のない平和をつなげていこうと、9月のお彼岸中日に行っています。



霊域之碑



224柱の墓碑

お寺の鐘は二度出征

～龍泉山東光寺（中里）の金属回収供出の話

No.
9

須津村役場公文書「回収並供出書類」綴の内容を調べる中で、「金属回収」の国民運動・展開について分かりました。

アジア・太平洋戦争の開始まで、日本は軍需生産重要資源である鉄をアメリカからの輸入で賄っていました。そのアメリカと戦争を始めたことから、鉄不足に陥りました。

金属回収の

国民運動が始まる

役場公文書、1941年8月25日付、静岡県の総務・学務・経済・土木・警察の各部長連名で、村長宛てに「第二次官庁・公共団体資源回収実施に関する件通牒」との要綱が出されています。

この要綱には、「過般第一次回収ニ続キ、官庁公共団体、他ニ率先垂範ヲ以テ第二次回収ヲ為サントス」と書かれています。旧須津村はこの回収に協力。国民学校から、「便所くみ取り口ふた11個 60kg、垣鉄棒4本、20kg」の報告書があります。続けて1942年には、官公庁に次いで、民間金属類特別回収

に取り組む文書が作成されました。民間を一般家庭と会社に分け、村長から町内会長・隣組長に対し、回収物件については、廃品回収ではなく、原則現用物件献納を基調に取り組むよう指示しています。

隣組まで総動員で回収した結果、旧須津村837世帯、517貫760匁もの金属が集まりました（富士郡地方事務所集計表による）。

一般家庭供出物件

門扉、門柱、柵、広告板、欄干、手すり、脚立、火鉢、鉄びん、文鎮、灰皿など



東光寺の現在の梵鐘

お寺の鐘も供出

1942年6月、県学務部社寺兵事課から村長宛てに「寺院、教会等ノ金属特別回収ニ関スル件」という文書が届き、村の寺院9か所、教会1か所に対し、「譲渡申込書」の提出指示がありました。

同年12月、各寺院から、申込書が役場に提出され、中里の東光寺（梵鐘、半鐘、香炉、燭台、鰐口）、中里の福聚院（梵鐘、半鐘、鰐口、鉄柵）と記入があります。

1943年10月8日付 梵鐘代金通知文書

院名	個数	重量	梵鐘代金
東光寺	1個	738kg	65,682円
福聚院	1個	243kg	21,627円

この文書を追いかけるように、1943年10月21日付、富士地方事務所長から村長宛てに、「大東亜戦争完遂梵鐘国債化報国運動実施ノ件」という文書が届き、該当寺院に指導しました。1度目の出征は梵鐘現物の供出、2度目は国債購入で軍費調達にと、2度も供出させました。しかし、この国債は、戦後のインフレで紙くず同然となってしまいました。

1945年4月18日付、地方事務所長から村長宛てに、「金属回収ニ関スル功労者顕彰ノ件」という文書で、4月29日表彰式挙行のお知らせがありました。

東光寺は戦後、梵鐘を再建するも、福聚院は再建できていません。

「梵鐘も灯籠もみな召されしかつつしみ深く山門くぐる」（昭和万葉集）



鐘の供出（本國寺）



供出した梵鐘・半鐘などの写真



福聚院の梵鐘

静岡県抑留犠牲者慰霊碑

(松本) No. 10

敗戦後多くの日本人がソ連軍によりシベリアやモンゴルに連行され、極寒の地で重労働に従事させられ、飢餓もあいまって約6万人の尊い生命が異国の土となりました。

静岡県出身者も2千人近くの人々が故郷に帰りたいと願いながら亡くなりました。

シベリア抑留で亡くなった人の遺族や、抑留経験者、多くの県民の資金で2003年11月に慰霊碑が建立されました。慰霊碑は「全世界が丸く収まるように」と直径1メートルの地球儀の形に造られ、土台に「平和の礎」と刻まれています。慰霊碑の前では、毎年11月に慰霊祭が営まれています。



静岡県抑留犠牲者慰霊碑

俺だけ帰ってすまない。
必ず迎えに来るから

生前、遺骨収集活動に熱心に参加していた望月寅雄氏は満蒙開拓青少年義勇軍に入隊し、戦後シベリアに抑留され1949年に帰国しました。

望月氏は、1991年から始まったシベリア遺骨収集に「抑留中亡くなった同僚との約束、『必ず迎えに来る』との約束を果たすため」と、2008年までに19回も参加しました。

また、「平和のための富士戦争展」の実行委員として、富士の語りべの会代表を務めた橋口傑氏と、毎年「満蒙開拓青少年義勇軍」「シベリア遺骨収集」についての展示を行い、多くの市民に戦争の実相を伝える活動に従事したほか、前述の「平和の礎」建立の実行委員長の大役も果たしました。



シベリアでの焼骨の様子



望月寅雄氏

第二部 戦争の記録

1

富士市の戦没兵士たち

—昭和の15年戦争に見る

15年戦争

明治維新後の日本は、国の近代化を進める中で、ほぼ10年ごとに大きな戦争を繰り返してきました。その行きついた先が、昭和の15年戦争です。

1931年の満州事変に始まる中国への侵攻は、1937年には全面的な日中戦争となり、現在の富士市域からも多くの若者が兵士として戦場に動員され、3千人を超える兵士が戦死・戦病死しました。

日中戦争は1941年にアメリカやイギリスなどの戦争に拡大し（アジア・太平洋戦争）、さらに多くの人々が兵士として遠い戦場にかかり出され、死んでいきました。

しかし、この15年戦争でアジアの国々（中国をはじめ朝鮮・フィリピン・ベトナム・インドネシアなど）では、日本人の何倍もの犠牲者が出たことを忘れてはなりません。

富士市出身の兵士たちはどこで戦死したのか

圧倒的に多いのが中国（「満州」を含む）で、926人です。昭和の長い戦争は日中戦争が中心でした。次に戦死者が多いのがフィリピンの514人で、さらにビルマ（現ミャンマー）137人、スマトラ、ジャワ、ボルネオなど（現インドネシア）の74人です。

また、ニューギニア、ガダルカナル、ソロモンなどの地域で322人、中部太平洋地域（サイパン、グアム、マーシャルなど）では303人が戦死しています。



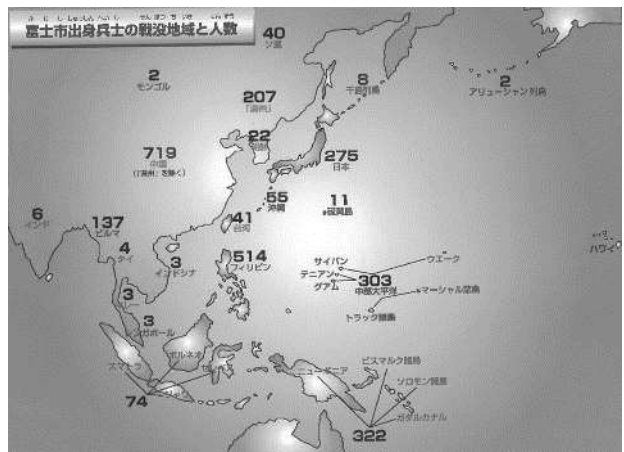
出征の様子



葬儀の様子

戦没時期と人数（概数）

満州事変 1931年から1937年	20人
日中戦争 1937年から1941年	327人
アジア・太平洋戦争 1941年から1945年 (戦後を含む)	2,705人
不明	56人



富士市出身兵士の戦没地域と人数

満蒙開拓青少年義勇軍 富士小隊

2

満蒙とは

満州と内蒙古（現在の中国東北部）のことです。

五族協和と王道樂土

満州国のスローガン。「五族協和」とは、漢、満州、蒙古、朝鮮、日本の5つの民族が仲よく協力していくこと、「王道樂土」とは武力を使わず王の徳によって政治が行なわれる平和な土地を言います。

しかし、実際の満州国は日本の操り国家で、日本軍（当時は関東軍と呼んだ）が支配者として権力を握り、5つの民族も平等ではなく、日本人が主人公となり他の民族を差別していました。日本からの移民の開拓地は、中国農民の土地をただ同然で買い取るか、奪い取ったものでした。



富士小隊

義勇軍を勧めたのは

義勇軍に応募したのは、多くが小学校高等科を卒業したばかりの少年たちでした。彼らに義勇軍参加の決意をさせた一番の動機づけは、学校の先生の指導・勧誘でした。当時、先生は子どもたちに対し、絶大な影響力を持っていました。

1939年3月に富士郡（現在の富士市、富士宮市）で全国最初の義勇軍の郷土部隊「富士小隊」が生まれました。「富士小隊」の誕生は富士郡教育会の教師たちが国の政策に則し、取り組んだ「成果」でした。それが翌年の静岡県単独の義勇軍中隊（植松中隊）の編成につながり、この方式が全国に広がっていきました。

富士郡教育会による「富士小隊」の編成・送出は、1939年から1944年まで6次にも及び、その送出総数は440人と県下最大でした。教育会は大陸開拓の功労団体として国から顕彰されました。

満州に渡った少年たちはやがて開拓団員や兵士になりました。しかし1945年8月にソ連軍が満州に侵攻したことによって

多くの犠牲者を出し、シベリアに抑留された人たちもいました。



富士小隊冊子

元吉原小学校の「培本舎」

元吉原小学校には戦時中「培本舎」と呼ばれる日輪兵舎がありました。日輪兵舎とは円形の木造2階建て家屋で、義勇軍の内隊訓練所（茨城県の内原）に建てられていました。

培本舎は、1940年12月に完成し、富士郡下の義勇軍を志願した少年たちの予備訓練に使われました。



培本舎

特高警察による 反戦平和・自由の弾圧

富士地域の弾圧事件

3

生活綴方教育弾圧事件 富士川尋常高等小学校の 2人の教師

戦時下で起きた生活綴方教育への弾圧は、1940年2月の山形県の教師、村山俊太郎先生らの検挙に始まり、東北地方や北海道、東京、茨城、新潟など各地に広がりました。

検挙された教師は数百人と言われていますが、全容は未解明のままです。その最後となるのが1942年の静岡県での12人の教師たちの検挙です。1942年3月の「特高月報」に、「静岡県に於ける生活主義教育運動関係者検挙状況」として、次のような報告があります。

「富士川国民学校訓導平田秀夫外数名の左翼教員によりて、昭和10年4月頃より静岡県綴方教育研究会を組織し機関紙『綴方細胞』を発行して、プロレタリア教育運動を展開しつつありたるを探知し、平田外3名を検挙せり」(概略)

平田秀夫先生(旧富士川町出身)は静岡師範学校卒業後、教師として由比小学校勤務を経て、1935年から富士川尋常高等小学校(現富士川第一小学校)に勤めます。

綴方教育に意欲的に取り組んだ平田先生は、担任となったクラス文集「ふじかはの子」を発行しました。

富士地域の特高警察による弾圧年表

1931年		満州事変
1937年		日中戦争の全面化
1938年	8月	『東海文学』同人たちの検挙
1941年	12月	アジア・太平洋戦争に拡大
1942年	3月～8月	県下での生活綴方教育への弾圧
	3月29日	平田秀夫先生ら4人の教師検挙
	5月19日 8月10日	岩田哲郎先生の検挙 芦沢清先生ら7人の教師検挙
1945年	2月	反戦の投書をした女性の検挙
	8月15日	敗戦(終戦)



平田秀夫先生

平田先生は師範学校で同期であった岩田哲郎先生や高木幸奈先生と、同人誌『綴方細胞』を発売。さらに県内の教師に呼びかけ、静岡県綴方教育人連盟を結成します。

こうした熱心な教育活動は、戦争が激化する中で大がかりな教育弾圧事件に巻き込まれることになりました。

1935年8月、富士川尋常高等小学校に着任した芦沢清先生は、平田先生の2年後輩に当たります。綴方教育に熱心な教師で、1937年度に担任した5年生のクラス文集「富士川堤」には、子どもたちの綴方と詩が掲載されています。

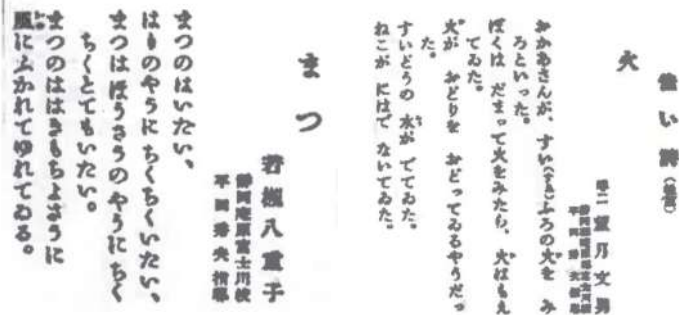
芦沢先生は興津国民学校にいた1942年8月に、治安維持法違反容疑で検挙されました。

平田先生の検挙は同じ年の3月29日でした。寝込みを襲った特高警察は、本棚や机、押し入ればかりか天井裏、そして畳をも剥がし、縁の下までも家宅搜索した上、平田先生を清水警察署に連行していききました。取り調べで1年拘留され、その後起訴。懲役2年執行猶予3年の判決を受け、学校は退職となりました。

平田先生は1944年11月には赤紙（召集令状）が来て満州へと送られ、翌年8月、敗戦直前に起きたソ連軍の侵攻の中で戦死しました。幼い子どもたちや妻と再会することも、再び教壇に立つ夢も断たれて、異国の土となりました。33歳でした。



『綴方細胞』



平田先生の教え子たちによる詩

芦沢清「生活の仕方を勉強する綴り方」

「みんながお互に自分の生活を綴方に書き、さうしてお互に読み合ひ、話し合つて、お互に自分自分の生活をもつとよい生活にまでし上げて行くのだ。いやな事に出合つても、大変なことがあつても、こまることがあつても、それに負けないでつき進んで行く子になつてくれ。こんな子がほんたうに強い子なのだ」



『富士川堤』



芦沢清先生

富士の反戦投書事件

1943年半ば頃から、富士地域のあちこちの郵便ポストから反戦平和を訴える手紙が見つかるようになりました。東条英機首相や静岡県知事、愛国婦人会長などの有名な人たちに宛てた手紙です。

「どうか一日も早くこの戦争をやめてください」「戦争は必ず日本が負けます」「どこの国とも仲よくしていただきたい」「国民の生活がどんなに苦しいのかお分かりにならないのですか」といった、平和を強く希望する内容でした。

県警から「早く逮捕せよ」と厳命を受けた吉原警察署特高課は、必死で捜査しますが、なかなか被疑者を突き止められませんでした。

特高警察は1945年の2月になってようやく、富士町水戸島に娘と住む5代の女性を検挙しました。

彼女は夫と長男を病気で亡くし、残された次男は、召集され南方に向かう途中、乗っていた輸送船が撃沈され戦死してしまいました。実家の息子たちも次々と戦死し、日本の無謀な戦

争が続くことに疑問を持ったようでした。

女性は脅迫罪、不敬罪のほか、言論、出版、集会、結社等臨時取締法違反で送検されました。戦争反対・平和な生活を訴えた一女性の声は、戦時下では「社会・人心を攪乱する」行為として、特高警察に逮捕・弾圧されました。



『昭和特高弾圧史5』

「特高月報」に掲載された反戦投書（1944年6月）

「日本婦人国防婦人会長水野ます子宛（外、畑俊六陸軍大将、静岡県知事等に宛てたる同種のもの五件）の左記投書発見。

会長様

日本の国では米英を侮って、はなれ小島へ兵隊や軍属をやってアメリカを空襲しようと思って、反対に皆殺される。輸送船は次から次と沈められ、其の損害は何程でしょう。

本国では空襲が有と言って防空訓練をして国民を恐しがらして、女や子供は何の仕事も手につかず、其の上一ばん力になる子供は一枚の赤紙で御めしになって、死で来たか生きてきたかわからない様な所へ、かよわいつまや子供をうちすてて行く兵隊のことも御かんがへ下さりませ。

今アメリカへ行ってどんなに御金持て来、日本人よかったか奴れいに使たと言っても金がなければいたしかたないと思ひます。わきの国を撃滅しやう何んて、其な恐しきことは止めて、どこの国とも仲よくしていただきたいと思ひます。

陛下のためならと思うけれど、わきの国が平和にしているのに日本でさわがしていたでは、わるくないでしたか。日本はアメリカを空襲しようなんて、そんなおそろしいことをしやうなんて、もし我国へ空襲されたら、こんな小さな国で又々はなれ小島のやうに皆殺にされるかと思うと、いきた心ちはないと思ひます云々。」

〔静岡県〕（犯人捜査中）

富士への学童集団疎開

4

15年戦争の末期、戦局の悪化によりアメリカ軍の空襲が迫るなか、大都市に住む国民学校初等科（小学校）の子どもたちを地方に移住させる集団疎開が行われました。

1944年8月には、ここ富士市にも東京から1200人以上の子どもたちが集団疎開してきました。

子どもたちは、本土決戦に備えた軍隊配備のために、翌1945年6月には青森県へと再疎開します。

集団疎開は敗戦を挟み、1946年10月頃まで続きました。その間親元から離された子どもたちは、疎開生活の中でホームシックや空腹、ノミ・シラミ、いじめなどに苦しみました。

東京都立国民学校唯称寺

学寮看板
(唯称寺)

富士市への学童集団疎開

中原国民学校 (288人)	実相寺、瑞林寺、一乗寺
京陽国民学校 (約400人)	唯称寺、大運寺、本国寺、延妙寺、妙祥寺
杜松国民学校 (250人)	金正寺、成安寺、常諦寺、延命寺、法源寺
神宮前国民学校 (114人)	永明寺、清岩寺
中幡国民学校 (162人)	円通寺、松雲寺、新豊院 等覚寺



境内で遊ぶ様子
(清岩寺)



鷹岡町国民学校の運動場で



一乗寺の本堂前で

戦時中の旧町村役場 兵事関係公文書の存在

5

終戦により、兵事関係書類焼却処分命令を受けた多くの旧町村役場では、文書の焼却処分が行われ、多くの貴重な資料が失われました。

ところが富士市内において、旧須津村や旧吉永村役場などでは貴重な公文書が多数残り、現在では富士市立中央図書館に保管されています。

戦時中の徴兵制度の状況を示す「壮丁名簿」「動員日誌」「検閲所見簿」「令状告知書類」「支那事变関係書類」「入営関係書類」「在郷軍人名簿」「兵事雑件綴」など、また戦死者の「村葬綴」、戦争傷者に関係する「傷痍軍人名簿」「軍人遺家族傷痍軍人関係綴」、銃後の社会を支えた「軍人後援会・銃後奉公会綴」「軍人墓地・忠霊塔関係綴」もあります。

須津村最後の兵事係

半田次男氏の証言

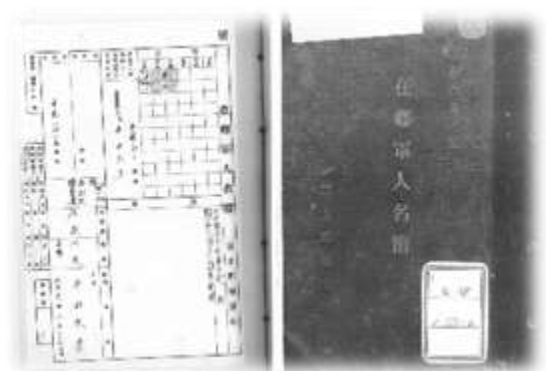
旧須津村に多くの兵事関係書類を残したことについて、「戦後、焼却命令はあったが、『自分の同僚の戦友や、戦死した者の貴重な書類を後世に伝えたい』という思いと、当時の村長の『いざというときは責任をとる』という発言もあり、リヤカーで書類を運び出し、自宅に隠した」という、当時兵事係だった半田次男氏の貴重な証言があります。



半田次男氏



須津村・吉永村の公文書



半田氏の押印がある在郷軍人名簿

小学校、国民学校の校務日誌、 各学校の百年誌などの記録

6

1945年 松野村国民学校勤勞奉仕状況一覧表（校務日誌から抜粋）

4・13	校長納部隊長期宿泊ノ件ニツキ役場へ出頭
4・15	軍隊宿泊ノ件ニツキ陸軍大尉土屋敦博氏外二名来校ス
4・17	教室配置変更、二部教授施行
5・4	納部隊長江口小一郎大佐殿並村長来校ス
5・15	夜間映画会ヲ催シ軍人慰問ヲ行フ
5・23	皇軍慰問演劇団来村、慰問演芸、映画行フ
5・28	軍隊ノフキ皮ムキニ協力ス
6・3	金子隊演芸大会行ハル
6・4	金子部隊ニ対シ慰問演芸会ヲ国民学校、女子青少年団合同ニテ行フ
6・5	初五以上児童小塚山へ軍隊使用ノ薪運ヒ奉仕、学徒出勅令書受領ス
6・6	初五以上薪運搬奉仕
6・8	高等科女児軍隊ノフキ皮ムキ奉仕
6・9	五・六年生軍隊ノフキ皮ムキ奉仕
7・2	軍隊陣地構築作業奉仕、職員並初五以上コンクリート用木運搬作業 初六児童土俵作り
7・10	金子大隊・安部中隊移動ノタメ出発

小学校、国民学校の校務日誌には、戦時中における出征兵士の見送りや留守家庭への農作業勤勞奉仕の状況、学校への機銃掃射の状況が記載されています。また、小学校の百年誌や旧制中学校、女学校の百年誌などに戦時中の生徒たちが勤勞動員に参加したこと、軍事教練の状況、学校自体が軍需工場化されたことなど、貴重な戦時体験の記録が収録されています。



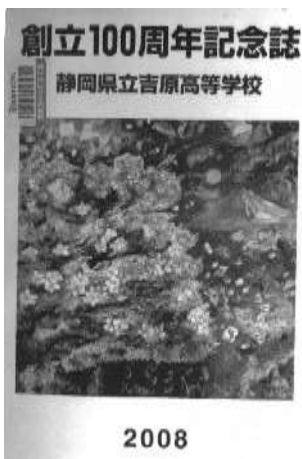
兵士救命胴衣製造（学校工場）



暗渠排水工事



鈴川海岸 塩田作業



吉原高校創立100周年記念誌



田子浦村国民学校校務日誌

戦争に関する実物資料

7

戦争に関する

資料のデータ化

核兵器廃絶平和富士市民の会は、市民から寄贈された品や、会が収集した約2千点に及ぶ戦争に関する実物資料を目録化しているほか、多くの人に活用してもらおうため、データ化を進めています。

また、毎年開催する「平和のための富士戦争展」においてテーマを決め、展示しています。

【戦争に関する実物資料の概要】

軍服、軍靴、背のう、奉公袋、飯盒、ゲートル、勲章、遺書、戦地からの手紙、ハガキ、慰問袋、日の丸の寄せ書き、千人針、出征風景写真、幟旗、軍隊手帳、カルタ、メンコ、紙飛行機、双六、教科書、絵本、綴り方、新聞、週刊誌、月刊誌、ポスター、チラシ



平和のための富士戦争展における実物資料展示



紙芝居



飛行服



玩具等



千人針

戦争体験等の記録

8

『富士の語りべの会第十集』

『富士の語りべの会第十集』

は、1989年9月に、橋口傑氏が代表となり発足した「富士の語りべの会」が、20年にわたり聞き取った、180余人のアジア・太平洋全域における戦争体験をコンパクトに収録したもので、2008年に書籍として発行されました。

今日、この証言者はほとんどが他界し、実際に語る事ができる人がいなくなっています。橋口氏は、十集の発行後も富士の語りべの会が終了するまでの記録をまとめており、その発行が待たれましたが、2025年に亡くなり、未完となりました。



『富士の語りべの会第十集』



すぐる
橋口傑氏

「平和を学ぶ講座」

15年の試行錯誤

戦争展に向けて作った展示物を継続して活用していくため、戦争展から独立した形で平和講座が2011年に始まりました。富士の語りべの会が解散したことを受け、平和講座において、戦争体験の語りも引き継ぎました。

過去の戦争から得た教訓に学ぶことはもちろんのこと、平和と戦争の問題をより広い視野、視点で考えてもらい、「これから平和をどのように創り上げていくか」「講師の拡大、若い人へどう発信していくか」「受生同士のディスカッションをどう拡げていくか」といった試行錯誤をしながら取り組まれています。



『平和を学ぶ講座10周年記念誌』



平和を学ぶ講座（戦跡見学）



平和を学ぶ講座（座学）

平和のための 富士戦争展



平和のための富士戦争展

「平和のための富士戦争展」は、富士市の核兵器廃絶平和都市宣言から3年後の1988年8月に初めて開催されました。当初は市役所の市民ホールでの開催でしたが、1996年からはロゼシアター展示室に会場を移し、2025年で37回を数えました。

展示物・スペースは県下最大規模で、6日間で小中高生をはじめ、2千から3千人が来場しています。

核兵器廃絶平和富士市民の会によると、この戦争展を支えてきたのは、「多くの実行委員の情熱と努力」「多くの市民からの戦争資料の寄贈」「多くの市民の参観を促す富士市の支援体制」などが挙げられます。

戦後80年が経ち、戦争体験を直接語る人が少なくなっている今、「戦争展」も転換の時期を迎え、新たな取組の模索が始まっています。

富士市ウェブサイト
平和推進のページ



〔発行〕令和8年3月
〔発行元〕富士市総務部シティプロモーション課
〔協力〕核兵器廃絶平和富士市民の会

富士市行政資料登録番号
R7-59